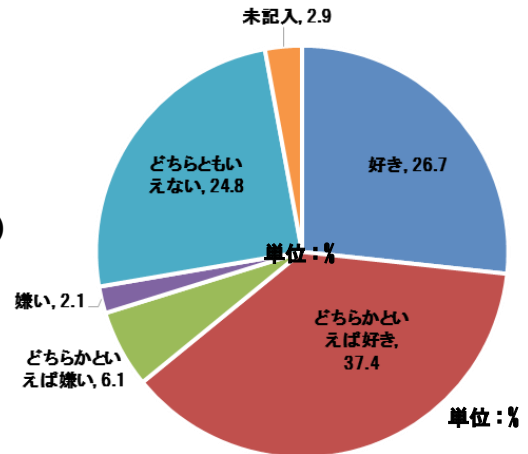


## (2) 白老町に対する好感度

### 問1 あなたは白老町が好きですか

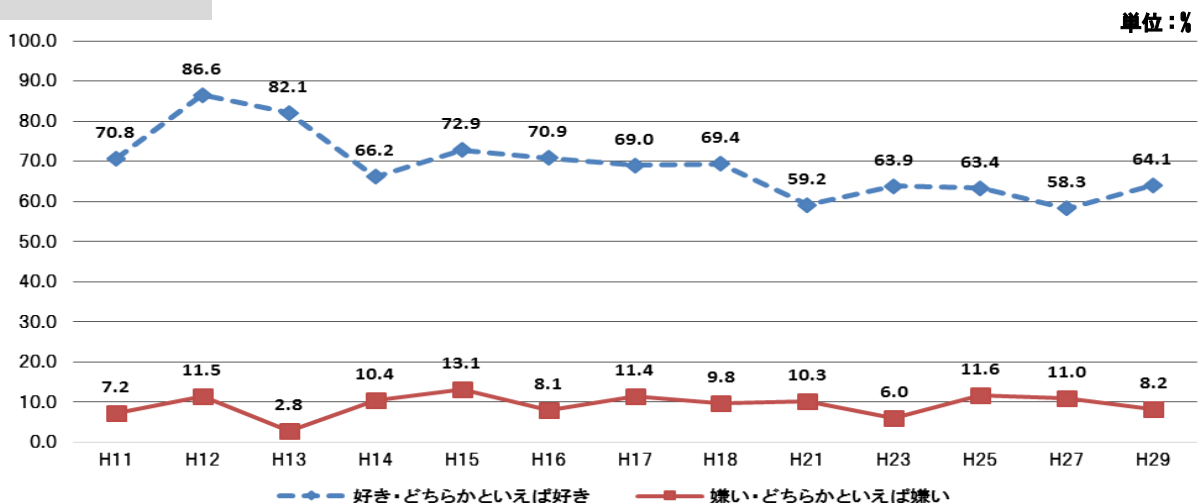
#### 【全体の傾向】

- 「白老町が好き」 64.1% (前回より **5.8ポイント増**)
- 「白老町が嫌い」 8.2% (前回より **2.8ポイント減**)
- 「どちらともいえない」 24.8%  
(前回より **0.2ポイント減**)



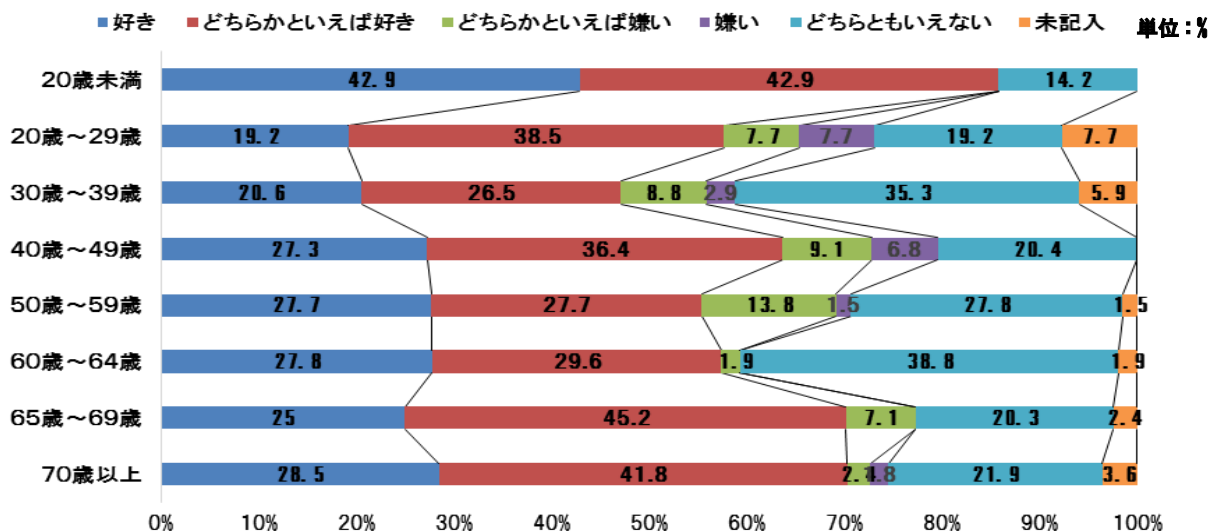
・「白老町が好き」「どちらかといえば好き」と回答した人の割合は、前回調査より5.8ポイント増の64.1%、一方、「白老町が嫌い」「どちらかといえば嫌い」を回答した人の割合は、前回より2.8ポイント減の8.2%となりました。

#### 【これまでの推移】



#### 【年齢別での傾向】

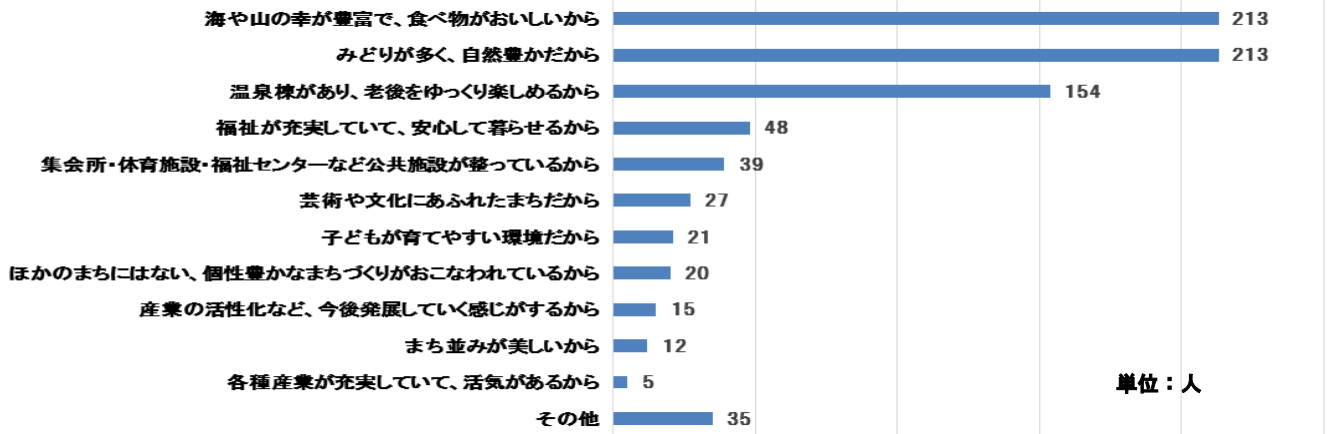
- 20歳未満および65歳以上の町民は「白老町が好き」
- ・ 20歳未満の方では、85.7%の人が「白老町が好き」「どちらかといえば好き」と回答しています。



問 1-2 白老町が「好き」「どちらかといえば好き」と答えた理由は何ですか（複数回答可）。

● 「食べ物おいしい」「自然豊か」「温泉等があり、老後をゆっくり楽しめる」

- ・白老町が好きな理由として、「海の幸が豊富で、食べ物おいしいから」「みどりが多く、自然豊かだから」「温泉等があり、老後をゆっくり楽しめるから」の順に多く、前回調査と同じ結果となりました。
- ・なお、性別や年代別、地区別においても全体の傾向と大きな違いは見られませんでした。

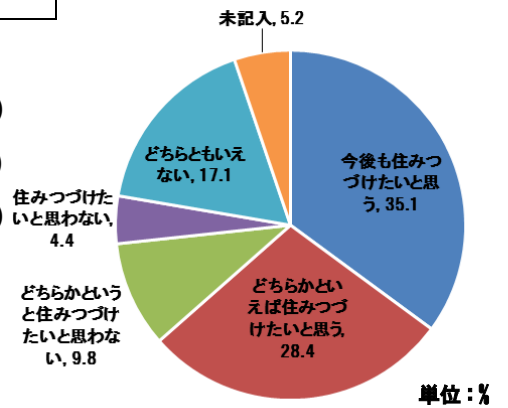


問 2 これから先も白老町に住みつづけたいと思いますか。

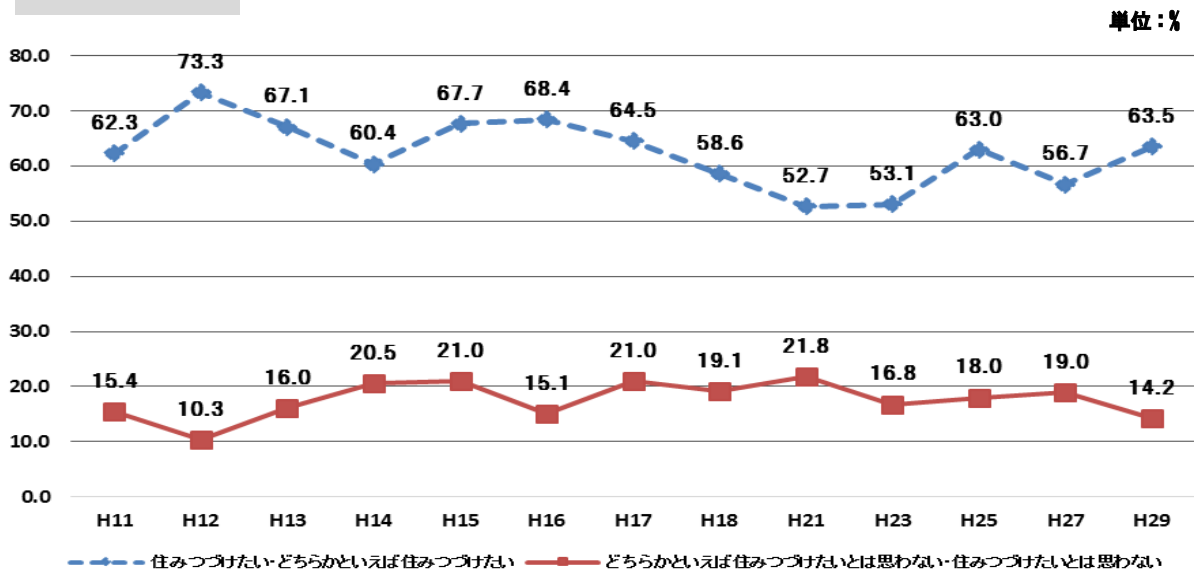
【全体の傾向】

- 「今後も住み続けたい」 63.5%（前回より 6.8 ポイント増）
- 「住み続けたくない」 14.2%（前回より 4.8 ポイント%減）
- 「どちらともいえない」 17.1%（前回より 1.1 ポイント減）

・白老町に「今後も住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と回答した人は、前回より 6.8 ポイント増の 63.5%となりました。



【これまでの推移】



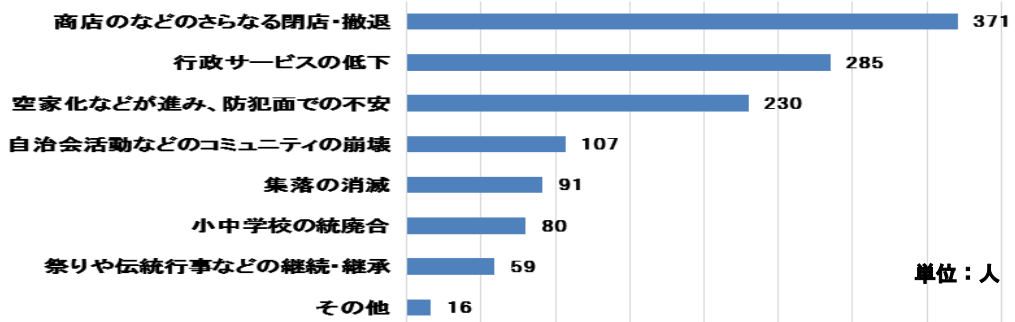
注）平成 14 年度以前の調査では選択項目等が異なるため参考値となります。

### (3) 白老町の人口減少について

問3 あなたは、人口減少がさらに進行していった場合、生活、暮らしにどんな不安を感じますか（3つまで複数回答可）。

●「商店の閉店・撤退」「行政サービスの低下」「防犯面の不安」の順

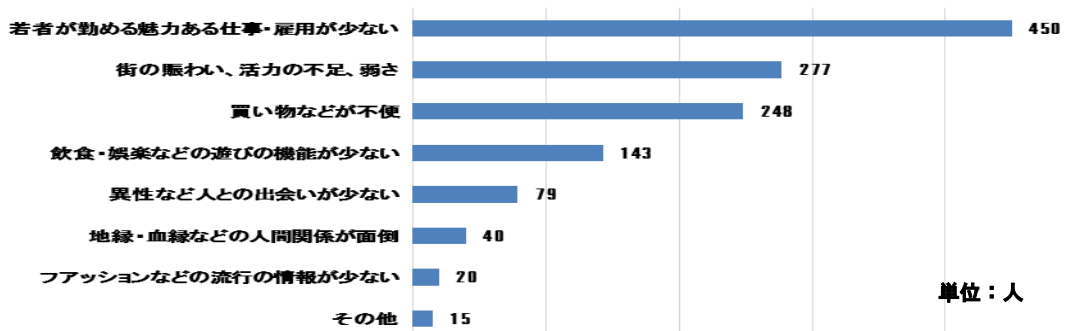
・人口減少により、買物や行政サービスの利便性低下への懸念や治安に対する不安の高まりが上位を占め、「自治会活動などのコミュニティの崩壊」「集落の消滅」など、地域の問題が続きます。



問4 進学によって白老から転出した若者が卒業後に町に戻ってこない理由は何だと思えますか（3つまで複数回答可）。

●雇用面の原因が突出 ●町の賑わい ●買い物不便や出会いの少なさも原因に

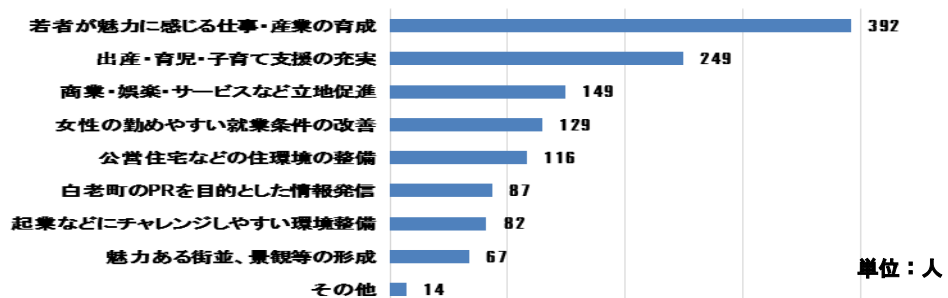
・若者のUターンを阻害する要因としては、雇用の場や機会の少ないことが顕著となっています。その他、まちの賑わいや活力不足、買い物の不便さを指摘する声が多く寄せられています。



問5 子育て世代を白老町に呼び込む（流入）、または流出を抑えるためにはどのような分野に重点を置くべきだと思いますか（3つまで複数回答可）。

●最も望まれているのは「仕事・産業の育成」、次いで「子育て支援の充実」の順

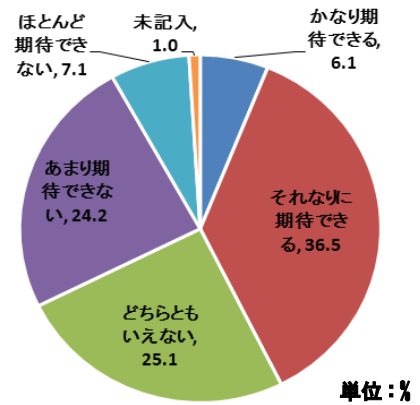
・子育て世代を増加させる対策としては、「魅力ある仕事・産業の育成」が最も高く、次いで「出産・育児・子育て支援の充実」「商業・娯楽・サービスなどの立地支援」の順となっており、雇用環境の充実の必要性がうかがえます。



**問6 民族共生象徴空間の整備に伴い、まちの経済的な活性化が期待できますか。**

●「経済的な活性化が期待できる」と答えた割合は 42.6%

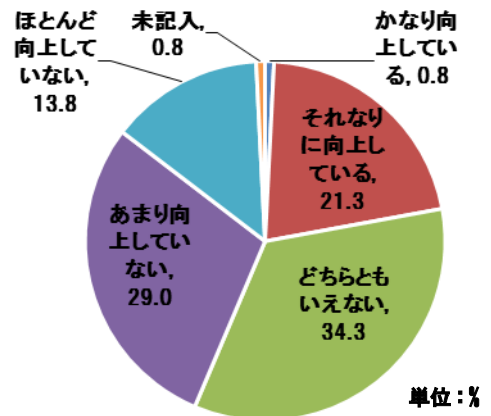
・2020年の民族共生象徴空間の開設により、経済的な波及効果への期待の高まりがうかがえます。



**問7 民族共生象徴空間の整備に伴い、まちなみの景観は向上していますか。**

●「まちなみの景観は向上している」と答えた割合は 22.1%

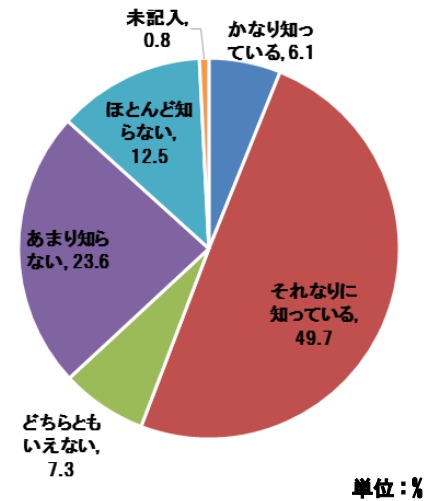
・2020年の民族共生象徴空間開設へ向け、周辺整備の検討を進めている過程にあり、現段階では、民間によるタペストリーの設置等が行われていますが、一層の景観等向上への取組みが必要であることがうかがえます。



**問8 白老町が多文化共生のまちづくりを進めていることを知っていますか。**

●知っている割合は 55.8%

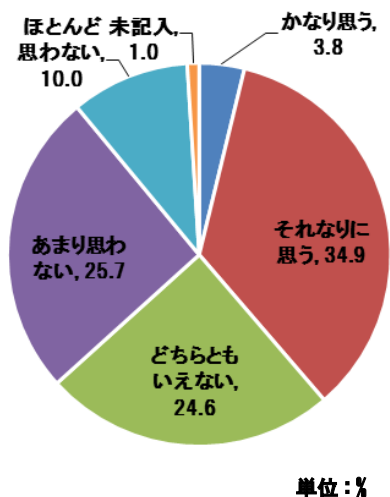
・白老町が多文化共生のまちづくりを推進していることを「知っている」「それなりに知っている」と回答した人は、55.8%となり、徐々に認知度の向上が図られていることがうかがえます。



**問9 アイヌ文化や多文化共生への理解が深まり、普及が進んでいると思いますか。**

●理解が深まっている、普及が進んでいると思うと感じている割合は 38.7%

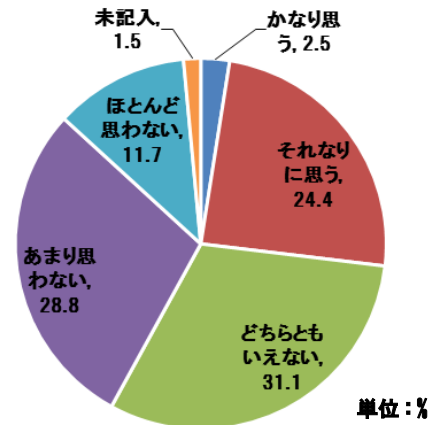
・「かなり思う」「それなりに思う」が38.7%となる一方、「あまり思わない」「ほとんど思わない」も35.7%と拮抗しており、今後一層の理解・普及への取組みの必要性がうかがえます。



**問 10 アイヌ文化や多文化共生（外国文化など）に関する教育が推進されていると思いますか。**

**●推進されていると思うと答えた割合は 26.9%**

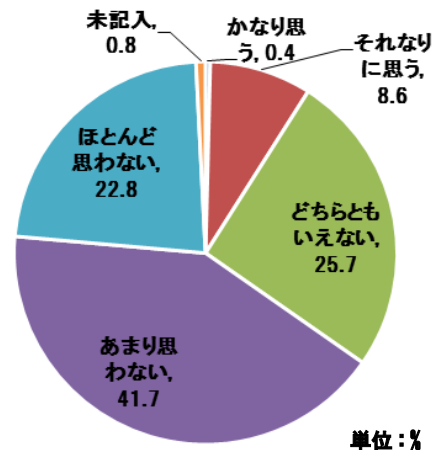
・「あまり思わない」「ほとんど思わない」が 40.5% となっており、「かなり思う」「それなりに思う」の 26.9%を大幅に上回っていることから、アイヌ文化等への理解促進に対する教育の必要性がうかがえます。



**問 11 あなたは町の人々がグローバル（世界的な発想で、かつ地域性を持った考え方・生き方）になっていると思いますか。**

**●「思う」は 9%、一方「思わない」は 64.5%**

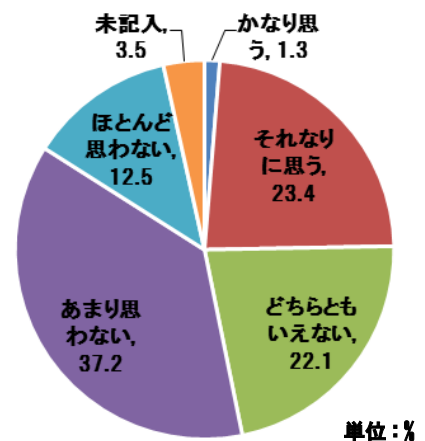
・2020年の民族共生象徴空間の開設に向け、国内外から多くの来訪者が見込まれていることから、グローバル（国際的）・ローカル（地方）の双方の視点をもった人材の育成が必要とされていますが、「あまり思わない」「ほとんど思わない」が 64.5% となっており、今後、一層の取組みが必要な状況となっています。



**問 12 町内の案内表示が来訪者にとってわかりやすいものになっていると思いますか。**

**●思うと答えた割合は 24.7%**

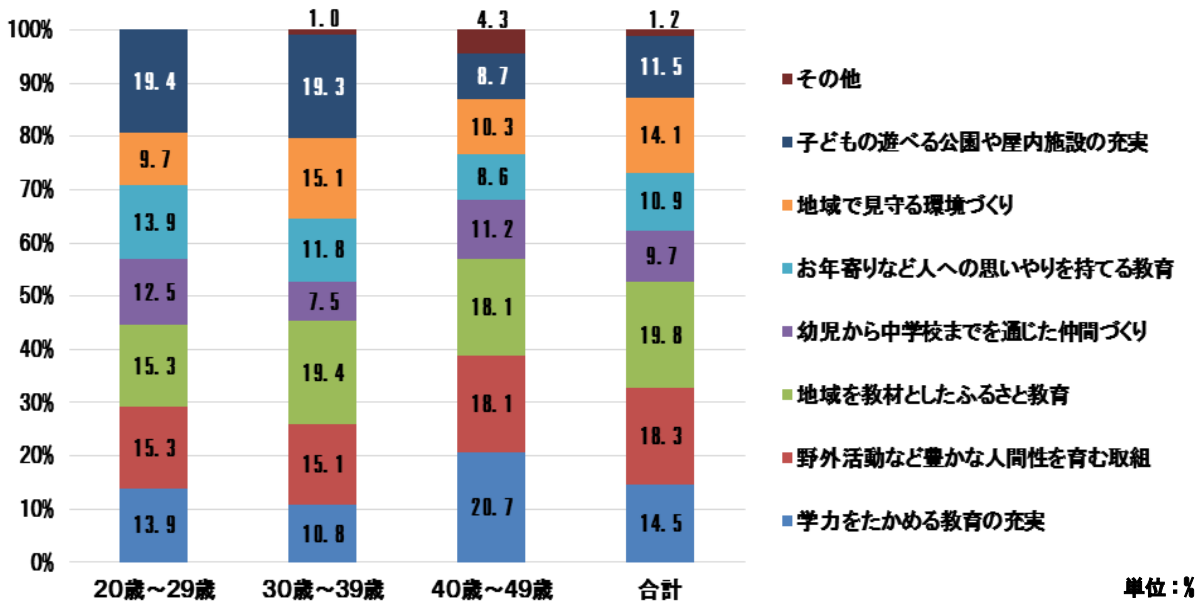
・前項の設問とともに、多くの来訪者にわかりやすい案内表示等の必要性が高まっていますが、現時点では、公共サイン等をはじめ、各飲食店のメニューなどへの多言語化等の必要性が高いことがうかがえます。



**問 13 将来の地域を担う人材を確保するためには、ふるさとを慕う子ども育成が重要です。そのためには、どのような分野に重点を置くべきだと思いますか（3つまで複数回答可）。**

●全体として「学力」「人間性」「ふるさと教育」を重視する回答が多い

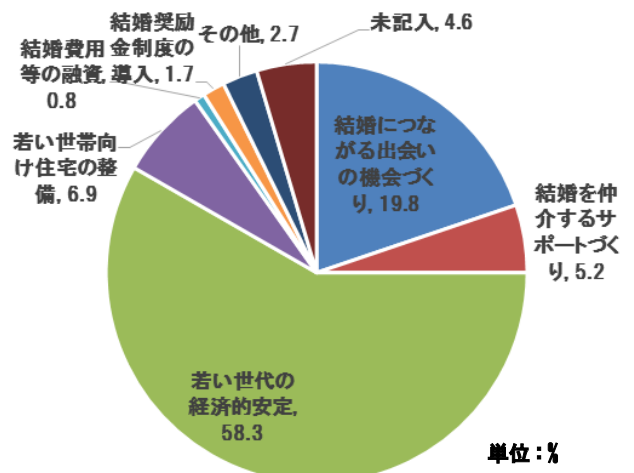
・全年代を通じて、「地域を教材としたふるさと教育」の重要性を指摘する回答が多くなっています。  
 ・また、20代～30代では、「子どもの遊べる公園や屋内施設の充実」への回答が多く、子育て世代が幼児や児童等の遊べる環境の充実を求めていること、また40代では、「学力をたかめる教育の充実」を重要視しており、受験生を抱える保護者等の存在がうかがえます。



**問 14 結婚希望をかなえるために、どのような取り組みに重点を置くべきだと思いますか。**

●「若い世代の経済的安定」が58.3%と突出

・近年の少子高齢化や人口減少の要因として晩婚や未婚についてが指摘されていますが、結婚願望をかなえるためには、「若い世代の経済的安定」への取組みが最も重要との結果となり、ここでも雇用環境の充実、対策の必要性がうかがえます。  
 ・一方、「結婚につながる出会いの機会づくり」（19.8%）「結婚を仲介するサポートづくり」（5.2%）など、結婚に向けての外的なサポート体制の必要性の高まりもうかがえます。



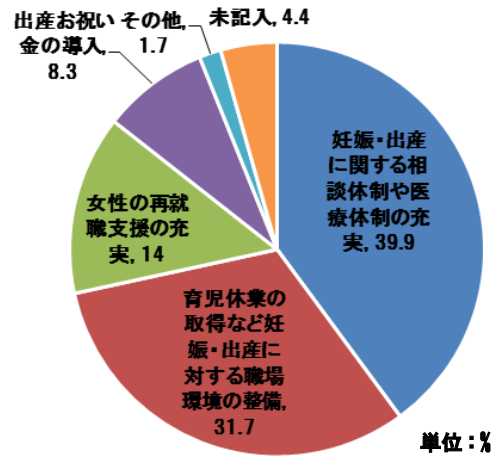


**問 15 出産希望をかなえるために、どのような取り組みに重点を置くべきだと思いますか。**

●「相談体制や医療体制の充実」と「職場環境の整備」が高い値

・出産の希望をかなえるためには、「妊娠・出産に関する相談体制や医療体制の充実」(39.9%)と「育児休業の取得など妊娠・出産に対する職場環境の整備」(31.7%)の2項目で合わせて71.6%にのぼり、妊娠中や子育てに関するサポート体制の充実が求められていることがうかがえます。

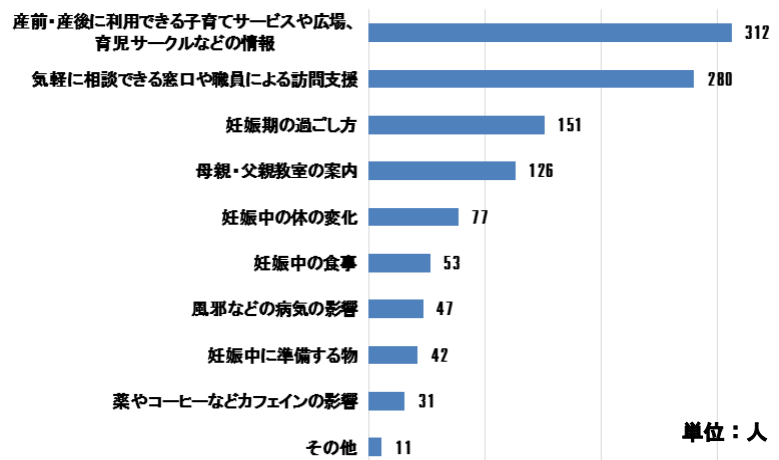
・また、「女性の再就職支援の充実」(14.0%)も3位となり、2位の「職場環境の整備」と合わせると45.7%が就労環境等の整備・充実を求めており、出産等に関して、離職や再就職等の問題が大きいことがうかがえます。



**問 16 白老町で妊娠期を安心して過ごすために、どのような情報や支援が必要だと思いますか (3つまで複数回答可)。**

●「子育て関係サービスや育児サークルの充実」および「相談窓口や訪問支援」のニーズが高い

・「産前・産後に利用できる子育てサービスや広場、育児サークルなどの情報」と「気軽に相談できる窓口や職員による訪問支援」が多数を占め、子育てに対する不安解消等の施策の必要性がうかがえます。

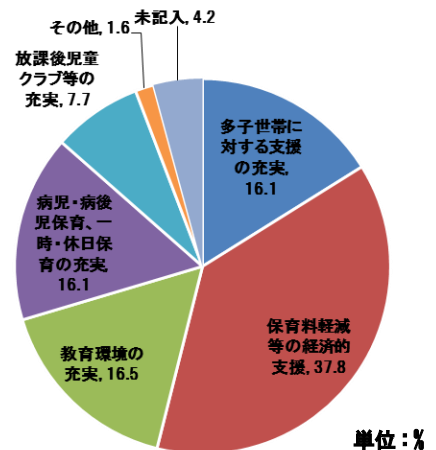


**問 17 子育てしやすくするために、どのような取り組みに重点を置くべきだと思いますか。**

●最も多いのは、保育料軽減 37.8%

・子育てをしやすくする環境整備としては、「保育料軽減等の経済的支援」(37.8%)が圧倒的に多く、また、「多子世帯に対する支援の充実」(16.1%)と合わせ、子育てに関する経済的負担の大きさがうかがえます。

・その他、「教育環境の充実」(16.5%)、「病児・病後児保育、一時・休日保育の充実」(16.1%)が続き、学力向上や子育てに関するサポート体制の必要性の高さがうかがえます。



## (4) これまでの暮らしに対する評価と今後の重要度

### 問 18 「第 5 次白老町総合計画」における 5 つの基本方針に基づく取組みへの満足度

★ 5 つの基本方針全てにおいて満足度が前回調査を上回っています。

基本方針	満足度 ( ) 内は前回調査値
<p>＜基本方針 1 生活・環境＞</p> <p>◆人と環境にやさしい 安全で快適に暮らせるまち</p> <p>自然と人が共生できるよう、環境保全や循環型社会の形成に配慮し、町民の快適な暮らしを支える生活環境の向上に取り組みます。また、災害などから町民の生命と財産を守り、誰もが安全で安心して暮らすことができる、やさしさのある住み良いまちづくりを進めます。</p>	<p>55.7% (54.7%)</p>
<p>＜基本方針 2 健康・福祉＞</p> <p>◆支えあい みんなが健やかに安心して暮らせるまち</p> <p>自らが積極的に行う健康づくりを推進するとともに、安心して子どもを産み育て、誰もが生涯を通して住み慣れた地域でいきいきと健やかに生活することができるよう、町民と行政が連携し、みんなで支えあう心の通ったまちづくりを進めます。</p>	<p>54.2% (52.5%)</p>
<p>＜基本方針 3 教育・生涯学習＞</p> <p>◆生きる力を育み 生きがいを実感できるまち</p> <p>家庭、学校、地域の連携を深め、次代を担う子どもたちが、確かな学力と体力、豊かな人間性を育むことができる教育環境の整備を進めます。また、アイヌ文化の伝承・保存、普及をはじめ、歴史や文化を大切に受け継ぐとともに、年齢にかかわらず誰もが生涯にわたって、生きがいを持って心豊かに暮らすことができるまちづくりを進めます。</p>	<p>53.7% (50.7%)</p>
<p>＜基本方針 4 産業＞</p> <p>◆地域資源を活かした 個性あふれる産業のまち</p> <p>厚みのある産業構造と豊富な地域資源を有効に活かしつつ、地域産業の経営基盤の強化を促進します。あわせて、「食材王国しらおい」の推進による地場産業の連携や企業誘致による新事業の創出など、バランスのとれた産業の振興を図り、新たな雇用が生まれる、個性あふれるまちづくりを進めます。</p>	<p>50.0% (47.1%)</p>
<p>＜基本方針 5 自治＞</p> <p>◆人と環境にやさしい 安全で快適に暮らせるまち</p> <p>自治基本条例に基づき、自主的な町民活動や町政参画を促進します。また、町民と行政との対話や情報共有を図りながら、効率的かつ効果的な行財政運営を推進することにより、お互いへの理解と信頼を深め、豊かで魅力あるまちの実現に向けて協働のまちづくりを進めます。</p>	<p>50.6% (50.4%)</p>